

# 事後評価箇所選定理由書及び評価軸調書

## 【事業名、地区名、事業概要】

○ 事業名：ほ場整備事業

○ 地区名：兵庫北部地区

○ 事業の概要

工 期：平成9年度～平成16年度

事業費：1,827,222千円

事業内容：区画整理A＝104.4ha

（用水路整備（用水ポンプ、パイプライン）  
排水路整備  
農道整備

暗渠排水A＝101.5ha

## 【評価箇所選定理由】

農地整備課の事後評価対象地区は、かんがい排水事業1地区、ほ場整備事業1地区、土地改良総合整備事業3地区、農免農道整備事業1地区、一般農道整備事業3地区である。

本地区は、今後整備を進めていく予定の市街地隣接農地と立地条件が類似していることから、本地区の効果を検証し、新規地区の事業計画に反映させるため、事後評価箇所として選定した。

## 【評価軸】

### ○ トータルデザイン（プラン）

本地区は、佐賀市の東部に位置した水田地帯で、米・麦を中心とした農業が展開されている。

地区の状況は、縦横に走るクリークは形状が不規則なうえ、ほ場の区画は狭小で不整形をなし、農道幅員は狭く蛇行するなど、大型機械による営農に支障を来していた。さらに、クリークは維持管理に多大な労力を要するとともに、水不足に備え貯水している状況から、農地の地下水位が高く湿田で、汎用化の最大の阻害要因となっていた。

このような状況の中、本事業の実施により、ほ場の大区画化、農道の整備、用排水路の分離などの生産条件が整備されたことにより、農地の汎用化が進み、農作業の効率が向上するなど、農業の近代化と農業生産性の向上が図られている。

### < 論点 >

- ・直接効果の発現状況、受益者の意識

## ○ 維持管理のあり方

ほ場整備事業で整備された農道は生活道路としても利用され、排水路は大雨時の貯留機能も有していることから、農家、非農家を問わず地域全体が恩恵を受けている。

そのため、現在の維持管理の状況としては、大規模に補修が必要なものは佐賀市土地改良区が実施し、日常的な施設の点検、草刈り、ゴミ拾いは、農家、非農家からなる「野中を良くする会」、「若宮を美しくする会」などが実施している。

しかしながら、農家人口の減少、高齢化が進むなかで、農家、非農家が一体となって取り組んでいる現在の維持管理体制が、今後とも、スムーズに次世代の担い手などの地域住民へ引き継がれるかが課題である。

### < 論点 >

- ・維持管理体制の継続

## ○ 地域住民との関わりについて

自治会による集落保全組織は、集落周辺の用排水路敷地へ季節に合わせ草花の植栽を計画的に取り組まれている。また、ほ場整備事業で、神社に隣接する箇所へ非農用地を創設し、その土地の一部は公民館の敷地として利用されている。

これらのほ場整備事業で生み出された用地は、地区内の農家、非農家がふれあう貴重な場になっている。

### < 論点 >

- ・農村の活性化